

説教要旨「あなたが必要だ」



マタイによる福音書4章18～25節

イエス様の最初の弟子となった四人は、ガリラヤ湖で魚を捕る漁師たちでした。彼らはそれぞれに、湖で網を打ったり、網の手入れをしたり、普段通りに仕事をしていました。イエス様は彼らが働いている姿を「御覧に」なって、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」(19節)と声をかけられます。それは、たまたま目についたから声をかけたということではありません。イエス様が彼らのどのようなどころを見てになって彼らを選ばれたのかはわたしには分かりませんが、それがシモンでありアンデレであり、ヤコブでありヨハネであったから声をかけられたのです。「わたしについてきなさい」と、「他の誰でもないあなたが必要なのだ」と。

このイエス様の招きに、シモンとアンデレは「すぐに網を捨てて」(20節)従いました。また、ヤコブとヨハネは、「この二人もすぐに、船と父親を残して」(22節)従います。どうして、大事なものを捨てたり家族と別れを厭わず、すぐに従って行くことができたのだろうかと思いに思います。もしかしたらイエス様が「御覧に」なっていたのは、彼らがすぐに招きに応えられるかどうか、だったのかも知れません。

私たちはどうしても、いろいろな条件を考え、先を見通しながら計画的に進もうとします。もちろんそれは大切なことでしょう。けれども私たちは、実際に明日なにが起こるのかを知り得ません。もし、それまで頑張ってきた苦勞が、まったく無駄になってしまうように思える“招き”を突然受けたならば、そのとき私たちはその“招き”に応えることができるのでしょうか。

イエス様は、そして神さまは、私たちのことを「ご覧に」なって招かれるのです。私たちの悩みや苦しみ、置かれている立場、すべてご覧になって、全てを分かった上で招いてくださる方なのです。なにも身構える必要はありません。そのときには、全てを主ご自身が整えてくださっているのです。この主に信頼し、主の招きに応えることのできるよう祈りつつ、共に歩んでまいりましょう。